

# 教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)  
予約購読料 1年分 5,000円  
紙代のみ 3,500円  
振替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546  
FAX03(3207)3918  
発行人 内藤留幸  
編集主筆 竹澤知代志  
印刷所 株式会社きかんし



基金・資金取り崩し議案が続いた

2011年度

## 教区総会報告

3

沖縄

西東京

東北

関東

東京

### 伝道所議員を正議員に

#### 教区規則改定

沖縄

沖縄教区 第68回総会は、5月29日から2日間、沖縄キリスト教センターで正議員45人中、開会時38人が出席して開催された。

沖縄教区は03年以来、9年連続で教団問安使を拒否したが、折から沖縄訪問中の石橋秀雄教団議長が総会を傍聴した。

竹花和成議長は、「教会のあり方を根源的に問わない教団を見る限り、現段階では教団との距離を置き続けるを得ない」などの議長中間報告を行い、質問・意見も出ず承認された。

財政関連議案の多い今総会で最も時間を割いたのは、「教会互助援助基金大綱」議案で、「基金5,000万円以上を2,000万円以上に減額する」もので、

原資の基金造成積立金が3月末で5,065万円となったことから、基金を減額して教会互助に運用しようという狙い。小倉隆一副議長は「互助申請が急増しており、基金を取り崩さない」と対応出来ない」と理解を求めた。

これに対し、「このまま基金を取り崩して行ったら沖縄教区は消滅する」「基金ではなく『研修センターなきじん』資金を取り崩すべき」などの反論が出て1時間余議論が続いたが、修正案が動議として成立せず、原案が挙手多数で可決承認された。

東日本大震災救援では、震災2日後に救援委員会を設立し、委員1人を現地に派遣。

総会1日目後には協議会を開催して、映像を中心に現地報告を聞いた。

東日本大震災救援・支援資金創設議案は、「なきじん」資金から1,000万円拠出するものだが、竹花議長は、「現地への派遣、被災地からの受け入れなど多岐、長期の活動に使用する」と述べて承認を得た。

『なきじん』貸し出し資金3,000万円を4,000万円に増額する」議案も承認されるなど、基金取り崩し議案の多い中で、もう一つ論議を呼んだのが、教区総会議員の「信徒各教会1名」を「信徒各教会・伝

道所1名」とし、伝道所議員を「推薦推薦員から正議員への変更を検討する作業委員会を設ける」という教区規則改定議案だった。

これに対し、「教団と距離を置く中での改定は、教団との距離をますます広げることになる」「社会派的立場が強い教区での改定は、教会的立場の教会の意見がい

つも否決されることになった」などの反論があったが、竹花議長は、「何かを逆転させようということではなく、27のうち11伝道所(活動中10)」という教区にあって、

道所1名」とし、伝道所議員を「推薦推薦員から正議員への変更を検討する作業委員会を設ける」という教区規則改定議案だった。

西東京教区 第25回定期総会が、5月29日、吉祥寺教会を会場に、開会時の登録数 正議員203名中127名の出席をもって開催された。

議事日程審議で、「教団総会の際に選挙や議案の賛否を指示するマニュアルが秘密裏に配布されていた。会

議制を揺るがす行為だ」との強い批判があった。これに対する大村栄議長の答弁がマニュアルを肯定しているとして、更に批判意見が述べられた。一方、「強制力のない資料に過ぎず、会

議制に背くものではない」との反論もあった。

### 北海教区との宣教協約更新

西東京

「北海教区との宣教協力に関する件」では、特に、1.の「信仰告白および教憲教規を共通基盤とし」の文言を巡り、大いに議論があった。これは未受洗者陪餐の否定を前提としている

か」との間に、久世そらち北海教区議長は、明確には否定も肯定もせず、教会の個々の歴史が存在する」と

し、「教憲教規を重視するが、その解釈や対応には多様な意見がある」という意味の答えを述べた。大村議長は、「議論はあったが、北海教区では全会一致で可決された」ことを強調し、「協約を締結した上で、未受洗者

て、小さな声に耳を傾ける小さな教区でありたいと願っているため」と答えた。

議案後半の「作業委員会を設ける」を削除することの修正案が動議として成立し、採決の結果、投票総数32、賛成22票で3分の2を

獲得し修正案が可決承認された。教区規則の改定は教団議長の承認を必要とするが、教規61条①に「ただし沖縄教区は①号ないし④号議員を教区規則の定めるところによって変更できる」を援用している。

懸案だった沖縄キリスト

九州教区総会報告(4724号)で報じたように、石橋秀雄議長は本年1月、沖縄を訪れたが、3役との面会は適わなかった。

本年2度目の沖縄訪問となった今回は、5月29日午前、無牧の与那原教会(代務・具志堅篤牧師)の主日礼拝で説教を行い、午後の教区総会に駆けつけた。

石橋議長は、議長

#### 石橋議長、沖縄総会傍聴

就任以来、沖縄教区との距離を何とかして縮められないかと適切な機会を探して来た。沖縄教区の姿をこの目で見せて戴き、今後どのような関係を築いて行けるか考えたいと思ったからだ」とその思いを語った。

石橋議長は2日目午前まで総会を傍聴したが、傍聴者の一括承認の際、異論は出なかった。

金貨事業収益に応じ返済する議案が可決承認された。

(永井清陽報)



協約締結後、握手する久世、大村両議長

では、主に、手続き、前提となった教憲教規の解釈に高橋豊常置委員が、熱情を込めて経緯、現状、他教区での豊かな取り組みを紹介し、09年度の経常収入の1%をきさげることが目標として努力することが可決された。

「11年度宣教活動計画に関する件」では、宣教の三本柱として、伝道、互助・連帯、地域奉仕が上げられた。また、この実施のために、A.立川伝道推進、B.青年活動の充実、C.他教区との交流、D.被災教区への積極的支援、が上げられた。

三役選挙結果  
【議長】大村栄(相愛)、  
【副議長】真壁巖(相愛)、  
【書記】七條真明(高井戸)  
常置委員選挙結果(半数改選)

【教職】岩田昌路(狹江)、山畑謙(小金井緑町)、道家紀一(井草)

【信徒】川原正言(南三鷹)、高橋豊(白鷺)、小中乃美子(永福町)

(新報編集部報)



# 東日本大震災対応議案可決



仙台青葉荘教会での開会礼拝

未確定要素の大きい原発問題、風評被害対応、牧師のケアの問題を含めて、教区が一丸となって他教区や教団との連携の中で、できる限りの取り組みをすることが確認された。

## 東北教区

第66回定期総会が、5月24日、25日にかけて、仙台青葉荘教会ならびに、東北教区セクター「エマオ」にて開催された。開会時の議員数は、153名中123名であった。

言うまでもないが、東北教区は東日本大震災の被災地の多くの部分と、東京電力福島第一原子力発電所を含む教区であり、総会はその内容にも時間的にも議案「東日本大震災対応に関する件」についての議論が中心となった。

この議案の骨子は5つ。1.教区全体の連携・教団および被災教区との連携。2.東北教区東日本大震災教会救援特別会計の設置。3.東北教区教会救援復興委員会設立。4.教区被災者支援セクターの設立。5.教区総会および教区活動について。これらの骨子一つひとつについて丁寧な議論がされ、震災被災地の復興支援、

しての対応の一つとして、エネルギー問題を考えるシンポジウムの開催について検討していることが明らかにされた。

件「東北教区セクター財政支援に関する件」等が可決され、1名の教師の按手礼が執行された。

【議長】北村慈郎教師に對する免職戒規適用の無効を確認し、免職処分を撤回

【議長】高橋和人（仙台東六番丁）、【副議長】小西望（仙台北）、【書記】石井佑二（山形本町）、【宣教部委員長】片岡舘也（若松栄町）

【教職】望月修（仙台広瀬河畔、保科隆（仙台東一番丁）、高田恵嗣（仙台北平）

【信徒】遠藤道雄（福島伊達、小林義春（石巻山城町、石原裕子（常磐（小林信人報）

## 「罪責告白」常置委員会付託



左から熊江、栗原、秋山、飯塚の新四役

韓基督教会関東地方会から出席の代表者より挨拶を受け、また

【議長】高橋和人（仙台東六番丁）、【副議長】小西望（仙台北）、【書記】石井佑二（山形本町）、【宣教部委員長】片岡舘也（若松栄町）

【教職】望月修（仙台広瀬河畔、保科隆（仙台東一番丁）、高田恵嗣（仙台北平）

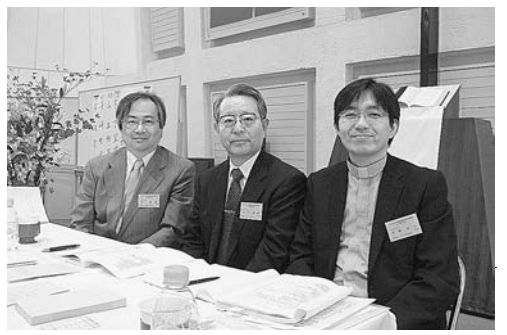
【信徒】遠藤道雄（福島伊達、小林義春（石巻山城町、石原裕子（常磐（小林信人報）

【議長】高橋和人（仙台東六番丁）、【副議長】小西望（仙台北）、【書記】石井佑二（山形本町）、【宣教部委員長】片岡舘也（若松栄町）

【教職】望月修（仙台広瀬河畔、保科隆（仙台東一番丁）、高田恵嗣（仙台北平）

【信徒】遠藤道雄（福島伊達、小林義春（石巻山城町、石原裕子（常磐（小林信人報）

## 東京教区で全国目標額の5割を



左から岸、木下、中村の三役

第70回定期総会が、5月31日、東京山手教会で開催され、正議員501人中、開会時328人が出席した。

【議長】高橋和人（仙台東六番丁）、【副議長】小西望（仙台北）、【書記】石井佑二（山形本町）、【宣教部委員長】片岡舘也（若松栄町）

【教職】望月修（仙台広瀬河畔、保科隆（仙台東一番丁）、高田恵嗣（仙台北平）

【信徒】遠藤道雄（福島伊達、小林義春（石巻山城町、石原裕子（常磐（小林信人報）

【議長】高橋和人（仙台東六番丁）、【副議長】小西望（仙台北）、【書記】石井佑二（山形本町）、【宣教部委員長】片岡舘也（若松栄町）

お詫び・訂正  
教団新報4725号2面東海教区総会報告記事本文中、「正副議長、宣教委員長選挙で」と記しましたが、「正副議長、伝道委員長選挙で」の間違ひでした。お詫びして訂正いたします。



◆宣教師公募、1名◆

ポリビア・サンタクルマ  
ポリビア福音メソジスト  
教会ラ・グロリア教会主  
任牧師

◎資格 日本基督教団正  
教師

◎締め切り 2011年  
8月31日(水)必着

◎選考 書類と9月16日  
(金)の面接にて決定

◎資料請求 世界宣教師  
部

電話 03-3320211

0544





安食教会、外見以上に深刻な被害

この度の東日本大震災の被災地域は非常に広範囲にわたっている。これまであまり報告されなかった千葉支区の教会の被災状況を、ここに報告させていた

## 東日本大震災 被災教会訪問

東京教区《千葉》、関東教区《茨城》

### 20 教会・伝道所が何らかの被害

東京教区千葉支区には、62の教会・伝道所が連なっている。4月25日に開催された支区総会にて配布された支区総会資料の中で、支区内各教会・伝道所の震災報告がされたのだが、震災報告をした57の教会・伝道所の中で「特に異常無し」と報告したのは、37の教会・伝道所であった。つまり、20の教会・伝道所が、軽微なものも含めて何らかの対処が必要な被害を受けたことを報告したということなのである。これが、千葉支区の教会・伝道所の大まかな被災状況である。中でも特に被害が大きい教会・伝道所をここに列記させていただき、全国の教会・伝道所の皆さんに祈りの課題に加えていただきた

### ほとんどの教会に何らかの被害

茨城県の被害は、東北、奥羽の各県に比べ、軽微に見える。しかし、地震による、液状化現象、土地の陥没をはじめ、教会堂、信徒の住まいの損傷等、困難な状況を抱えている。大きさの差はあれ、ほとんどの教会に何らかの被害が出ている状況である。また、地区には、幼稚園、保育園を併設する教会が多く、園舎の補修が課題となっている。中には5千万円規模の補修が必要な教会もある。紙面の都合上、記者が訪問した2教会、建物の被害が激しい水戸中央教会と、もともと震源地に近い日立教会の、被害及び地震後の取り組みに絞って紹介したい。

水戸中央教会は、山本隆久教師、山本英美教師が牧会する。会堂、牧師館が一体の建物は、いたる所にひびが入り、「危険建物」



危険建物と診断された水戸中央教会

区内諸教会・伝道所等復興献金」を呼びかけており、120万を超える献金が捧げられている。引き続き、教団との連携の中で、復興に当たっていくことが求められるだろう。加えて、千葉支区外から被災した人々を支えようという思いが強くなったそう

日立市は、震災後、物流が途絶えた福島県いわき市と隣接する。島田進教師は、いわき市の教会に、ガソリンや、全国から届いた支援物資を届けた。教会としても支援していくことを決めた。現在は、地区、教区もいわき市の教会を応援する取り組みを進めている。復興に向けて、支援、協力の輪が広がっている。茨城地区の教会は、自ら被災しつつ、より深刻な被害を受けた教会、地域を支援する立場にある。地区では、「茨城地区『東日本大震災』情報センター」を開設し、地区内の教会と関係教会、関係機関および地区委員の中でメールによって情報交換をしつつ、復興に向けて祈りを合わせている。



坂本 恵一さん

### 私は3代目クリスチャン



1974 年千葉県出身。西千葉教会員。

いわゆる、母親のお腹の中にいたときから教会にいたという教会育ちである。祖父母と両親の信仰を17歳で継承し、今に至っている。生まれてこれまで日曜日の礼拝を休んだのは十数回、はつきり言って変人ですとあつからかんと笑い飛ばす。ただ、教会だけが自分の居場所、というわけではなかったと言う。教会以外にも居場所はあり、いろいろな遊びも経験した。しかし、一見遊び人のような自分が礼拝を捧げていることが、お洒落で格好良いと思っていた。それが礼拝生活の原動力だったと振り返る。

現在の仕事は保育士。この務めに落ち着いて8年目。社会福祉に次ぐにわたって派遣し、全国諸教会に緊急救援募金を呼びかけ、広報活動も開始して、既に3ヶ月が経過しました。その間、各被災教区に1千万円を初動活動資金として送金し、更に教団として本格的な救援活動を担う「救援対策本部」を立ち上げ、本部長に石橋秀雄総会議長が就任、広範囲にわたる支援が精力的に、継続的に展開されています。その主な事柄はテーマ

### 救援活動をすすめるに際して

『地域の人々の救いに仕える教会の再建をめざして』これは日本基督教団東日本大震災救援対策本部の「テーマ」です。ここには、このたびの大地震・津波や原子力発電所事故による放射能の被害を受けた教会やその地域の人々を支援しようとする教団の基本的姿勢とその活動の方向性が明示されています。3月11日の大地震が起きた次の日に、教団は直ちに緊急救援対策委員会を総幹事のもとに設置し、活動を始めました。被災状況を正確に把握するために調査チームを

(教団総幹事 内藤留幸)